

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Gripキッズ市川大野校		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 20日		～ 令和8年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 20日		～ 令和8年 2月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	学習支援に力を入れており、宿題支援だけでなく、苦手な単元にフォーカスを当てて学習を進めることが出来る。	利用者様の学力や保護者様の希望に応じて、提供する学習内容を変更したり学習の量を調整している。あくまで強制ではなく、その日の心身の状況に応じて臨機応変に内容や量の変更もしている。	利用者様に学習の場として認識して貰う前に、支援者との信頼関係を構築し、まずは安心して通所して貰える場所として提供出来る様配慮する。
2	集団プログラムを通して、学習・運動・ソーシャルスキル等様々な経験を積むことが出来る。	出来ることを増やし、成功体験の機会を多く設けることで、自身に繋げていける様促しを行っている。生活の様々な面での経験を積むことで、集団生活における社会性、他者とのコミュニケーションを学べる様支援を行っている。	経験を積んで欲しいと思う反面、苦手なプログラムに無理に挑戦させて利用者の苦手意識を強化してしまわない様、関係性の構築、失敗しても大丈夫という認識、苦手でも楽しく取り組める環境づくりを心掛ける。
3	外出イベント、理科実験等の特別な体験プログラムを通し、情緒の発達や公共マナー獲得の一助となっている。	季節に則した外出先の設定や実験を行う事で、季節感を身に付け、利用者様の情操教育に繋がる支援を行っている。	外出先や実験内容が定型化しすぎてしまわない様、支援者間でアイデアを出し合い、新しい活動内容を計画していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別学習、集団療育が一日の流れとなっている為、利用者様にとってはやるべきことが多く、効果的な活動である反面、疲れてしまう要因にもなっている。	保護者様の要望(学習支援・人間関係の構築等)と、利用者様の要望(楽しく遊びたい、お出かけしたい等)の擦り合わせの機会を設ける必要が有る。	契約時やモニタリング等での説明を徹底し、学習塾ではないこと、テストの点数を上げたり試験に合格することが目標ではなく、あくまで学習意欲や自信を付けて貰う場所としての提供であることを理解して貰う。
2	利用を希望されるご家庭が多く、退所される方も少ない為、空きが中々出ず、新規の利用希望の方が中々固定で入れない現状がある。	学力・学習への取り組み姿勢に困り感を抱えているご家庭が多く、学習支援に力を入れている事業所へのニーズが高まってきている。	スポット＝利用が出来ないという認識になってしまわない様、保護者様への連絡を密に行い、利用の調整を行う事で固定利用でなくても出来るだけ多く活動の場を提供出来る様配慮する。
3	現状、中高生の利用者様がまだ少なく、新規で中高生の方がご見学・体験にいらっしやう際、同世代との関わりがあまり望めなさそうという理由で契約まで至らないことが有る。	中高生の利用が少なく、進学した方も部活や他の習い事で利用が減ったり退所となっている為。	同世代がこれから徐々に増えていくことや、小中学生も一緒に活動や余暇を楽しんでいる現状を見て貰い、年齢や学年に捉われず事業所での生活を楽しんで貰える環境を作る。